

アナマリア先生、教育・愛・人生を語る——タンゴの国から17年

学校の子ども支援・アナマリア&立命館大博士課程・能勢桂介

がいこくゆらい こ きょういくかだい がくりよくけいせい じょうけん

I 外国由来の子の教育課題と学力形成の条件

きょういく うける けんり みほしょう

1. 教育を受ける権利の未保障

がいこくせき こ かていじょうきょう にほん きょういく ほうせいど がいこくじんがっこう もんだい にゅうがく

外国籍の子は、家庭状況、日本の教育の法・制度、外国人学校の問題などから入学

拒否されたり、不就学になりやすく、権利が十分に保障されていない。なかには15歳

未満で働くケースもある。

にほん こうりつがっこう もんだい

2. 日本の公立学校での問題

がくしゅうげんご しゅうとく こんなん かてい ほんにん こみゆにけいしょん こんなん ぶんかてきはいいりよ

学習言語の習得の困難、家庭・本人とのコミュニケーション困難、文化的配慮な

い同化的な学校との文化摩擦によって学習意欲がわかず、雨、雪が降ったといったささ

いな理由で休んだり、いじめの対象になりやすい。こうしたクラスメイト・先生・

学校との葛藤・周縁化の結果、排除に至るケースもある。

がいこくじんがっこう

3. 外国人学校

がっこう にほん きょういくほうせいど こうてきしえん うけられず

ブラジル人学校は、日本の教育法・制度によって私塾扱いで、公的支援を受けられず、

バラックのような建物に教員・設備不足、高学費という状況で学習環境が

整わない(2006・10・20 NPO学習会レジュメ参照)。*朝鮮人学校は、各種学校

として市、県から補助、ブラジル人学校はサンタ・プロジェクトが補助。

ぎ む きょういく なかがっこう しゅうりょうご しんろ

4. 義務教育（中学校）終了後の進路

こくせき とりあげる じ ん こうこうしんがく きこく

ここでは2つの国籍グループを取り上げる。ブラジル人：ほとんど高校進学せず、帰国

ろどうしや おおい ふあんてい ていかそうか けねん ちゅうごくじん

するかそのまま労働者になることが多い。不安定な低下層化が懸念される。中国人：

きょういくねっしん おおく こうこうしんがく にほんじん くらべる

教育熱心で多くは高校進学していると思われるが、日本人に比べると、やはりハンディがある。

がいこくゆらい こども がくりよくけいせい

外国由来の子どもたちの学力形成

がくりよく とりあげる こども しんろ しょうらい かかわる

ここで学力を取り上げるのは、子どもたちの進路・将来に関わるからである。

かぞくじょうきょう こ けいざい しんりてき さぼーと かぞく おや がくれき

●家族状況：子を経済・心理的にサポートできる家族だろうか？また親の階層/学歴は？

にほんごりよく

日本語力は？

げんごしゅうとく

●言語習得

げんごかんきより こども ぶんか かんじけん いな

言語間距離（子どもの文化が漢字圏か否か）

にほんごしゅうとく じき らいにちねんれい みまん ぼご ふじゅうぶん さ い いじょう ぼご

日本語習得の時期（来日年齢：11、12歳未満＜母語が不十分＞、12歳以上＜母語

かくりつ

確立）

にほん がっこうぶんか せいど にんげんかんけい こども ぶんかてきはいけい かんけい

●日本の学校文化（制度・人間関係）になじめるか？（子どもの文化的背景とも関係）

ぼこく がくりよく ちくせき

●母国での学力の蓄積

ぶんか たいしてほこり いきて

●アイデンティティ（自分の文化に対して誇りをもちながら、生きていけるか？）

たいざいしかく な がすむ すまない がくしゅう どうきづけ もんだい

●滞在資格（長く住むか住まないかなど学習へ動機づけの問題）

↓↓
がくりよく

学力

しけん しょうきょうい ちゅうとうきょうい がくりよく しみん そだてる
私見では、初等教育・中等教育は、学力のほかに市民として育てること（シティズンシ
きょうい がっこう はしら
ップ教育）が学校の柱となるべきだと思う。

- じゆう ひと ちがい びょうどう みとめあう じんけん そんちよう
・自由（人の違い）を平等に認め合うこと＝人権を尊重する。
みんしゅしゅぎ にないて ちいきかつどう しみんかつどう せいじ さんか
・民主主義の担い手として地域活動・市民活動・政治に参加する。

はなし

II アナマリアさんの話

にほん きた

1 日本に来たわけ

ながねん しょうがっこう せんせい あいだにほんじんおっと しりあい おっと にほん かえった

- ねん らいにち
・長年、アルゼンチンで小学校の先生、その間日本人夫と知り合い、夫が日本に帰ったの
で90年に来日。

にほんご

しゅわ なら

- ・日本語を覚えるのに苦勞（日本語の先生がいなかった）。手話も習った。
にほんしゃかい くろう へんけん
・日本社会での苦勞・偏見：「大変ですね」といわれる。PTAでお母さんたちと仲良くでき
ない。
こそだて くろう がっこう せんせい がっこう ぶんしょう ご
・4人の子育ての苦勞：学校の先生や学校の文章はどうしたか？スペイン語・アルゼンチ
ぶんか おしえ
ン文化は教えられたか？

がっこうしえん

2 学校支援（3年前から数校に支援に入る）

けん じきゅう えん じかん ねん ねん

- ・県の「ほっとサポーター」（時給700円年700時間：2005年～2007年）

し とくべつし えんきょういくし えんいん ねんこうはん
市の「特別支援教育支援員」(2007年後半～)

- きょういくもくひょう げんじょう にほん せいかつ がくしゅう ふじゅう しどう
- ・アナマリアさんの教育目標：「現状の日本での生活や学習に不自由がないように指導
いっぽう じこく ぼこく ほこり うしなわない
しつつ、一方で自国や母国の誇りを失わないようにする。」

こども なに おしえて
1. 子どもたちに何を教えているか？

- ていがくねん しょうがっこう1ねん
- 低学年のこども(小学校1年)
やすみじかん にほんご おしえて にほんご べんきょう おしえられなかった
 - ・休み時間に日本語を教えていた。なかなかまとまって日本語・勉強を教えられなかった。
こうがくねん こども
 - 高学年の子ども

1ねん かんじ おしえた しゅう3かい 2じかん
カタカナ・ひらがなのドリル。1年の漢字を教えた。週3回、2時間ずつ。

- がいくじん こども たんじょうびかい
- *外国人の子どもだけでなく日本人の子ども見たり、誕生日会をしたり、ケーキを作ったりア
こくさいかんかく そだてる はなして
ルゼンチンのこと(国際感覚を育てる)も話してあげた。

がっこう おや こども かてい ぶらじる がっこう にほん
2. 学校と親をつなぐ←子どもたちは、「家庭はブラジル、学校は日本」「親も日本のことが

がっこう
分からず」学校になじみにくい。

- こんだんかい かていほうもん つうやく
- ・懇談会・家庭訪問の通訳
がっこう てがみ やくす べんとう つくりかた おしえた
 - ・学校の手紙を訳す。弁当の作り方を教えたことも。
いりょうつうやく しえいじゅうたく せわ
 - ・医療通訳・市営住宅の世話も。
おや にほん べんきょう おもって
 - ・親たちは「日本にいて勉強」つづけてほしいと思っている。

3 アナマリアが日本人に思っていること

いりぐち

- ・入口がせまい。

あたりまえ

おおい

- ・当たり前とされているルールが多い。
- ・ただまじめならばいい？人生は楽しまなくては。

④アルゼンチンの教育は？

たみんぞくしゃがい

きょういく

いみん

こ

ことば

わからないこ

おしえて

- ・多民族社会でどう教育するのか？移民の子（言葉が分からない子）にどうやって教えて

いたか？

あるぜんちん

きょういく

- ・アルゼンチンの教育のいいところ

がっこう

はられて

きょういくもくひょう

<アルゼンチンの学校に張られている教育目標：抜書き>

きょういく

教育とは――

しんねん きょうよう

みずから

しんねん

ひきおこさせる

- ・信念を強要するのではなく、自らの信念をひき起こさせるようにすることである。

みち おしえる

あるきかた

おしえる

- ・道を教えるのではなく、歩き方を教えることである。

きりつ おしつける

みずから

せきにな

かんがえこうどう

- ・規律を押しつけるのではなく、自らの責任で考え行動できるようにすることである。

かた

ちがひ

そんちよう

- ・型にはめるのではなく、それぞれの違いを尊重することである。

なかま

おそれず

たいわ

あいだ

じぶんじしん

かんがえるちから

やしなわせる

- ・仲間はずれを恐れず、対話と愛で、自分自身で考える力を養わせることである。

たん

ちしき

あたえる

いのち

かち

おしえる

- ・単なる知識を与えるのではなく、命の価値を教えることである。

ていあん

4 提案（別紙プロジェクト参照）

おも さんこう おすすめ ほん

主な参考・お勧めの本

がいこくじんぜんぱん

外国人全般

みやじま たかし 「とも い き ら れ る にほん ー がいこくじんしさく かだい 」 ゆいかくせんしょ

●宮島 喬 , 2003 , 『共に生きられる日本へ—外国人施策とその課題』有斐閣選書.

がいこくじんきょういくぜんぱん

外国人教育全般

たかはしまさお しやろん S ばいばえ 「 せいと きた いぶんか

●高橋正夫／シャロンS. バイパエ, 1996, 『「ガイジン」生徒がやって来た——「異文化」

がいこくじんじどう せいと むかえる 」たいしゅうかんしよてん

としての外国人児童・生徒をどう迎えるか』大修館書店.

にほん きょういくかくさ

●日本の教育格差について

かりやたけひこ 「たいしゅうきょういくしゃかい がくれきしゆぎ びょうどうしんわ せんごし

苅谷剛彦, 1995, 『大衆教育社会のゆくえ——学歴主義と平等神話の戦後史』

ちゅうおうこうろんしゃ

中央公論社.